

「こどものまちミニさっぽろ2017」 建設ゾーンにブースを出店しました

9月30日、10月1日の2日間アクセスサッポロにおいて、「こどものまちミニさっぽろ」が開催されました。

当イベントは、札幌市内及び札幌広域圏の小学校3・4年生が仮想の街である「ミニさっぽろ市」の市民となり擬似的な就労・消費生活等の市民体験を行うものです。

当社は建設ゾーンにて、パワーショベルやダンプカーの操作を取り入れた「建設機械運転手」のブースを出店し、2日間で116名の子どもたちの雇い入れを行いました。



10/3 北海道通信 日刊建設版 掲載

パワーショベルを操作

田中組は建設機械運転手のブース

田中組(札幌、松村敏文社長)は九月三十日から二日間、アクセスサッポロで建設部門の企業として「こどものまちミニさっぽろ」に参加した。

建設機械運転手のブースを設け、児童はパワーショベルを操作して荷物をダンプトラックに積み込んだほか、ダンプトラックを操作して荷下しをするなど、建設の仕事を体験した。

児童はパワーショベルやダンプカーの操作を体験した

「こどものまちミニさっぽろ」は毎年、小学三・四年生を対象に働くことの楽しさや大変さをもっと体験してもらいたいことを目的に行われている。

同社は、子どもたちに建設業の仕事を体験してもらったため、今回初めてミニさっぽろに参加した。

工事の流れを理解してもらったため、パワーショベルやダンプカーの操作を取り入れたブースを設置。パワーショベルのハンドルを操作して五色のボールをダンプカーに積み込んだほか、リモコンでダンプカーを操作し、荷下しを行った。

参加した児童は「普通の車と違って楽しかった。将来建設の仕事をやってみよう」と話していた。

総務部の松井副次長は「子どもたちが建設の興味をもち、将来を担ってくれる」と話していた。